

高山ダム 木津川（有市地点）の水位を1.1m低減

木津川水系名張川 高山ダム流域では、台風18号に伴う総雨量が290mmに達し、ダムへの流入量は最大1,595m³/sを記録しました。これは、昭和44年から管理している高山ダムでは7番目に大きな流入量の洪水でした。

この洪水に対して、防災操作^{*}を実施し、ダム下流の有市水位観測所において、水位を最大1.1m低減（推定）し、道路の冠水時間を7時間低減し、通行止めの時間短縮に務めました。

※『防災操作』とは、大雨などによりダム湖に流れ込む洪水の一部を貯水池に溜め込み、洪水を小さくして、ダム下流の河川に流すことを言います。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査等により数値等が変わることがあります。

平成25年9月18日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所
独立行政法人 水資源機構 木津川ダム総合管理所

発表記者クラブ

学研都市記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 木津川ダム総合管理所 副所長 佐々木

住 所：三重県名張市下比奈知2811-2

電 話：0595（64）8961（代表）

国土交通省 淀川ダム統合管理事務所 副所長 吉原

住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号

電 話：072（856）3131（代表）

高山ダム 木津川（有市地点）の水位を1.1m低減

台風18号の接近により、9月15日1時頃より降り始めた降雨は、淀川水系名張川の高山ダム上流域では、15日22時から23時の1時間の雨量が最大22mmを記録し、総雨量は290mmに達しました。

この降雨による出水に対し、16日3時に洪水期準備水位（水位標高117.0m）に達したため、防災操作を開始しました。

今回の防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムの減水効果が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	ダムに貯留した量
高山ダム	290mm	平成25年9月16日 9時10分	毎秒1,576m ³ /s	毎秒453m ³ /s	毎秒1,123m ³ /s

高山ダムにおける管理開始以降の最大出水記録

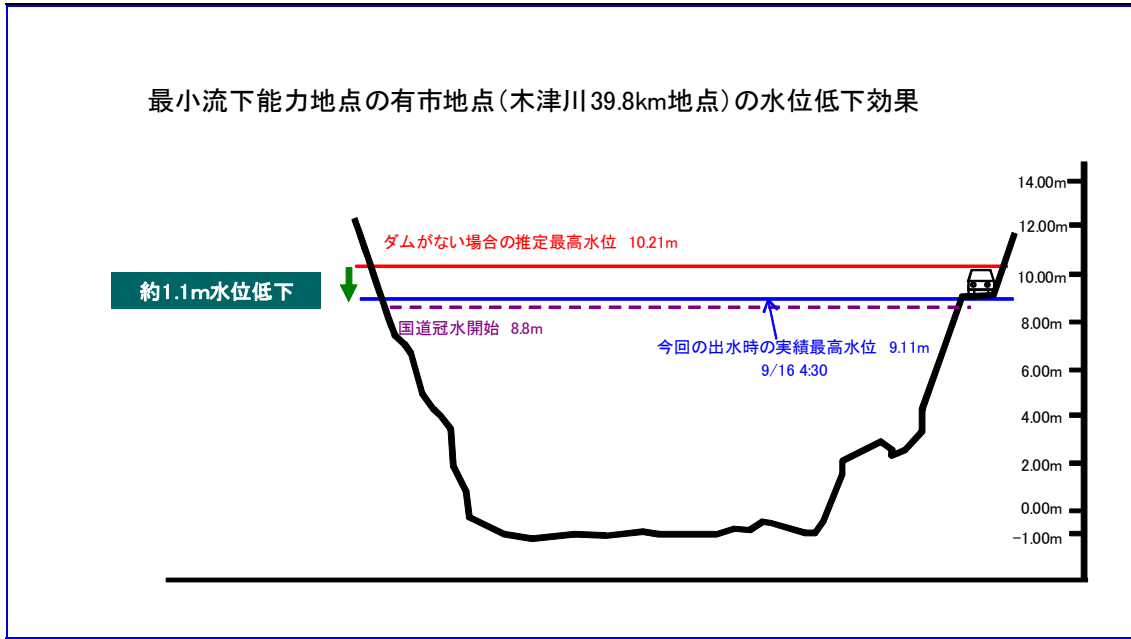
	記録年月日（原因）	総雨量	最大流入量
高山ダム	S57.8.1（台風10号）	471mm	毎秒2,765m ³ /s

この防災操作では下流河川の状況、木津川本川の状況、ダムの貯水容量等を考慮し、淀川ダム統管理事務所と連携し、ダム下流の浸水被害軽減のための防災操作を行いました。

この結果、ダム下流の有市水位観測所付近では、高山ダムによる洪水の貯留によりダムが無い場合に比べて河川水位を最大1.1m低減（推定）し、国道の水没時間を8時間半から1時間半に短縮することに務めました。

高山ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

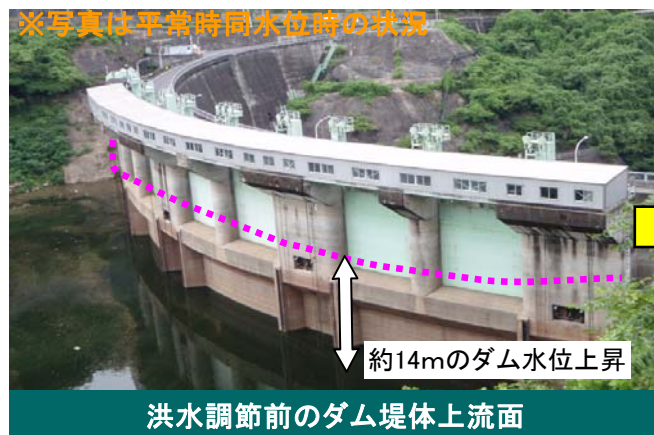
高山ダム下流河川の状況



ダムによる水位低減効果は約1.1mと推定されます。



高山ダム貯水位の状況



高山ダム操作概要図

